

わたづ便り 第1号

渡津の人口/世帯数(4月末)

人口：1868人

男：875人

女：993人

世帯数：895戸

わたづコミュニティ協議会発行 平成29年5月
江津市渡津町658-1 TEL&FAX ; 0855 - 52 - 2569

わたづコミュニティ協議会の発足

昨年11月のコミュニティ協議会設立準備会総会にて代議員の賛成多数で今年4月1日付での本協議会の発足と8つの専門部の設置が決まりました。その活動のスローガンは「明るい渡津の未来創造のため、第一歩を踏み出しましょう」です。そして活動の3本柱は次の通りです。1) 支え合いの仕組みづくり (生活支援、地域ぐるみの子育て、防犯・防災)、2) 地域づくり (域内外との交流活動、環境・景観を守る活動、生産・事業活動)、3) 人づくり (生涯学習推進、歴史・文化伝承、地域の教育力向上、健康づくり)。皆さんで協力して「子供・お年寄りに優しい、安全・安心な渡津」を創造しましょう。尚、協議会役員は以下の通です。

会長	藤田映範	事務局長	室田 洋
副会長	斉藤初夫	事務局次長	木村典子
〃	永元清春	監事	原田富士香、花田有策

各専門部の活動方針

3本柱を実現するために、4月14日の総会にて、今年度の各専門部の活動方針が承認されました。

1. 総務企画部 (室田洋部長) ; 1) 「わたづ便り」の内容充実、2) 先行コミュニティの成功事例の調査・視察。
2. 健康福祉部 (有田康人部長) ; 「ふれあいサロン」「独居老人給食」「定期訪問活動」の更なる充実と渡津地区「オレンジカフェ」の立ち上げ協力。
3. 防災・安全部 (佐々木啓之部長) ; 自治会単位の避難計画作成と防災訓練のアドバイスと指導。
4. 環境整備部 (永元清春部長) ; 環境美化を推進し、住みよい安らぎの町づくり、渡津地区での「ホテルの里づくりプロジェクト」可能性の調査。
5. 事業・振興部 (山代邦徳部長) ; 身の回りの利用可能な資源を調査し、地域に根差した商品を生産・販売し、コミュニティの活性化と収益に貢献する事業を興す。
6. 教育・教養部 (川本朋和部長) ; 子供の健康で健全な育成を図るため、クリーン作戦(保育園前)、「褒め表彰」、ハゼ釣り大会、「わたづ祭り」での餅つきなど実施。
7. 文化部 (山田健治部長) ; 文化・芸術活動による地域活性化の可能性と渡津の歴史を伝える記録) 写真・古文書収集の可能性を調査する。

8. 体育部（小川和洋部長）；各専門部との連携を取りながら体育協会事業の充実を図る。従来の「おはようわたづふれあいの集い」「地区民体育大会」「わたづ祭り」に加え、グランドゴルフ大会、ウォーキング・ジョギングコース整備を検討。

その他総会で決まったこと

1. 「表彰規定」の制定；人命救助・社会福祉活動又は青少年健全育成活動、更に人目に付かずこつこつと社会奉仕活動をしておられる方々を協議会で表彰することになりました。詳しくはコミュニティセンターまで。
2. 協議会の監事として、原田富士香さんと花田有策さんに就任して頂くことが承認されました。



自治会活動と協議会活動の仕分け

今後の自治会と協議会の活動の仕分けについては次のように考えています。渡津地区の特殊性は4つ（長田、渡津、嘉戸、塩田）の地域の独立・独自性が高いことです。それぞれでお宮、集会所（旧公民館）を持ち夏はそれぞれの盆踊りを、秋はそれぞれの神楽を楽しむ。なんと贅沢なことでしょう。他の地区、例えば渡津の2倍近い人口と世帯数の大規模協議会である嘉久志や二宮でもお宮・公民館（コミュニティセンター）も盆踊り・神楽もみな1つです。こうしたことから、当協議会では各自治会の独立（自）性を尊重し、個々の自治会活動への関与はできるだけ少なくすべきと考えます。ただ、スケールメリットが生かせ、渡津地区民として一体感を保つため必要と思われ、7つの自治会が協力してやったほうが良い活動、例えば「おはよう渡津ふれあいの集い」、「わたづ祭り」、「地区民体育大会」、「敬老会」などは協議会主催とします。それは連邦制をとる米国のように中央政府（ホワイトハウス）は国防、外交、通貨を担当し、それ以外は多様で特殊性のある各州に任せるやり方に似ています。よって、江津市や他の協議会との交渉・調整や複数の自治会が協力した方がスケールメリットを出せる活動は協議会の活動とします。例えば、今後考えられる商品（作物）の生産・販売事業を立ち上げる場合、生産活動は各自治会単位で行い、商品の集積と市場設営は協議会が行うという役割を分担することも考えられます。今後はこうした基準で自治会活動と協議会活動の仕分けをしてゆきます。



昨年の敬老会での「渡津美女軍団」



ちびっこの「キッズダンス」も最高

学校関係活動事例

子供は地域でも育てるべきとの考えから、1.「読み聞かせ」（毎週水曜日）、2.「サタデースクール」（毎月第4土曜日）、3.「子供ひろば」（毎週木曜日）などにも協力しています。「見守り隊」は各自治会選出の隊員で毎朝夕の登下校時活躍しておられます。ご苦労様です。更に、学校支援全般、放課後支援、サタデースクールのそれぞれのコーディネーター（世話役）は青木禮子さん、藤田久美子さん、藤田映範センター長が行っています。他にも、清和養護学校の「地域との交流学习」として「ふれあい農園」（さつまいもの栽培・収穫活動）や「交流学习」（生徒さんと歌ったりゲームをしたり）にも参加しています。以上に参加希望・関心のある方は小学校（52 - 2153）かコミュニティセンター（52 - 2569）まで。



「サタデースクール」の様子



「子供ひろば」クリスマス会



「交流学习」山藤先生もゲームに必死



「ふれあい農園」子供に人気の和江さん

複数の自治会ボランティアが協力しての活動

岩貝と大元の自治会有志の皆さん（「岩貝大元花の会」）は岩貝地区の河川敷に花壇を作り、季節の花々をみごとに育てられています。以前は雑草が茫々でゴミ捨て場になっていた河川敷を、その管理者である国土交通省河川事務所に計画を提出し花の球根や種を無料で頂き、美しい花壇に変身させました。現在その場所は住民の散策コースに変わり、ゴミを捨てる人もなくなったそうです。こうした運動が増えるといいですね。今年度は「環境整備部」の活動に加え更に充実させることも検討されています。有志の一人佐野千寿子さんよりのメッセージ；「滔々と流れる江川、高角山のふるりの景観に親しみ、花の咲く水辺で安らぎの時を過ごしに来ませんか？」新鮮な出会いがあるかも？



花壇でゴミ捨て場から散策コースに



岩貝と大元自治会の有志の皆さん

黒松地域コミュニティ防災訓練を見学

2月26日防災訓練を永井センター長にお願いし見学させて頂きました。地震・津波と火災に対する訓練で、警察と消防も協力・参加していました。参考になると思われたのは事前に呼びかけと助け合いのグループ分けがされ、各戸の家族構成、防災無線と火災報知器の有無、海拔、消火栓からの距離などが詳細に調べられた資料と、平日昼間は消防団に初期消火は頼れないことから普段在宅の女性がポンプ・ホースや消火器の使い方を積極的に練習されていたことでした。各自治会の避難計画作成の参考にして下さい。



脚の不自由な方は近所の方が車椅子で



女性の積極的訓練参加が目立った



編集後記

「わたづ便り」第1号への感想や注文あればお知らせください。今号は総会結果の報告が多くなりましたが、次号からは皆様の意見を取り入れ、益々充実した内容にしてゆきたいと思えます。また、おもしろい話題などありましたらコミュニティセンターまでお知らせ下さい。皆さん、協力して、「明るく、子供・お年寄りに優しい、安全・安心な渡津」創造のための第一歩を踏み出しましょう。

